

皇太子殿下お言葉（記録）

内容確認済み

2010年アフリカ・デー・シンポジウム オープニングセレモニー
平成22年5月26日（水）
国際連合大学

オスターヴァルダー国連大学学長，
サール在京アフリカ外交団長代行，
御列席の皆様，

アフリカ・デー・シンポジウムが、アフリカ各国や我が国からの参加者を迎え、本年も国連大学で開催されることをうれしく思います。アフリカ・デーは、今からほぼ半世紀前の1963年5月25日に、アフリカ連合（AU）の前身たるアフリカ統一機構（OAU）誕生にちなみ定められました。また、2010年は、アフリカの年といわれる1960年からちょうど50年となり、今年はその意味から、数多くのアフリカの国々にとり特別の意味のある年であると伺っております。ちなみに、私自身1960年に生まれ、アフリカの多くの国々の国造りの歩みと共に年齢を重ねてきました。その意味で、私は以前からアフリカの諸国に親しみを持っており、アフリカ諸国の発展を高い関心を持って見つめてまいりました。

2000年以来、これまで10回開催されてきたアフリカ・デー・シンポジウムは、日本とアフリカ諸国の様々な分野の専門家が一堂に集い、様々な課題の下でのアフリカの発展と諸外国との協力の在り方等について議論を深める貴重な機会を提供してきました。その観点から、このシンポジウムの開催は、日本におけるアフリカ理解の促進に大いに貢献してきたと伺っております。ここに、在京アフリカ外交団や国連大学を始めとする関係の皆様が、アフリカの発展及び日本とアフリカとの関係強化のため、日々御尽力されていることに対し、敬意を表します。

第11回目となる本日のシンポジウムでは、環境問題、とりわけ気候変動に焦点を当てて議論が行われると伺っております。私は、国連「水と衛生に関する諮問委員会」の名誉総裁の立場から、環境問題を始めアフリカが直面する様々な問題に関心を払ってまいりました。

本年3月、私は、サブサハラ・アフリカへの初めての訪問としてガーナとケニアを訪れました。ケニアでは、自然保護区とともに、日本の協力で造られた灌漑施設と水田を視察しました。そこでは、自然環境をいかにしながら食糧増産を図っていくという持続的開発の成功例に接することができました。また、私は、今回の両国訪問を通じ、アフリカの広い空と大地に接することもできました。そして、気候変動の脅威からアフリカの雄大な自然環境とそこに住む人々の生活環境を守ることは、アフリカの人々だけの問題ではなく、世界の人々に共通に課せられた重要な課題であるとの思いを新たにいたしました。

本日のシンポジウムでの活発な議論を契機に、国際社会において気候変動を始めとするアフリカの環境問題への理解と協力がより一層深まり、この問題への対処に向けた具体的な取組が更に進むことを希望して、私のあいさつといたします。